

「おーい の音」シリーズについて 千葉正也

『おーい』は日本語でのそのままの意味です。
遠くのものに呼びかける声です。

AがBに向かって大声で呼びかけているの状況を三人目の登場人物であるところの観賞者は見ているという設定になります。

『山の中』ではBはお面に描かれた鹿です。『月と太陽に向かって』ではBはキャンバスに描かれた丸です。Aはマジックで足の裏に描かれた人です。

(旅人とか狩人とかのイメージです。) 森の中に分け入って行く存在、というか。モデルさんをして貰ったのが女性でしたので、なんとなく足の裏に描いたのは男性の猟師、旅人、にしました。

マジックで描かれた人物の配置、と自分が設定した簡単な物語(自然物に向かって旅人がおーいと呼びかけている)はとても東洋的なモチーフだと思っています。

ふつう、画面に人型が描かれると、画面中の人以外の部分は背景になります。ですが、この絵では生身の人間を背景として扱っています。

人間を、舞台装置の骨組みの様に扱う事で、苦しい体勢、皮膚感覚を強調したディテールなどによって、背景の方にも感情移入し易く作っています。背景が人間なのでから当たり前ですが。

同時に感情移入させるという意図と矛盾した画面であると言う事も出来ると思います。

その特殊なバランスを作りたかったです。ほぼ成功しています。

『月と太陽に向かって』の方は、設定としてはキャンバスに描かれた丸が太陽、月、なのでキャンバス地の部分は宇宙を描いているという事になります。画面の角に小さくサインが書き込まれていますが、これはウルトラマンとウルトラマンセブンのサインです。

これは『ウルトラマン』の映像の中で実際にでてくるらしいです。

自分の偏った読書によりますと、悪魔と契約するときを使うヘブライ語の逆さ文字とあえて似せた言語らしいです。